東京都立三鷹中等教育学校　後期課程進路通信「はるつげくさ」

春 告 草

第 75 号　平成 29 年 9 月 27 日　進路指導部発行

センター試験に150名が出願！

平成30年度のセンター試験出願が昨日から始まった（出願期間　平成29年9月26日～10月6日）。現役生の出願は在籍校経由に限られることから、校内では先週に締切り、志願票の点検、取りまとめを行った。本校６年生の出願率は 99.3%で、ほぼ全員が出願している状況である。

受験教科の登録状況をまとめたのでレポートします。５年生は来年度の科目選択決定に向け、進路を絞り込まなければいけない時期になった。先輩方の状況も参考にしながら、慎重に考えていこう。

地歴2科目登録は3割、理科②2科目受験は2割5分

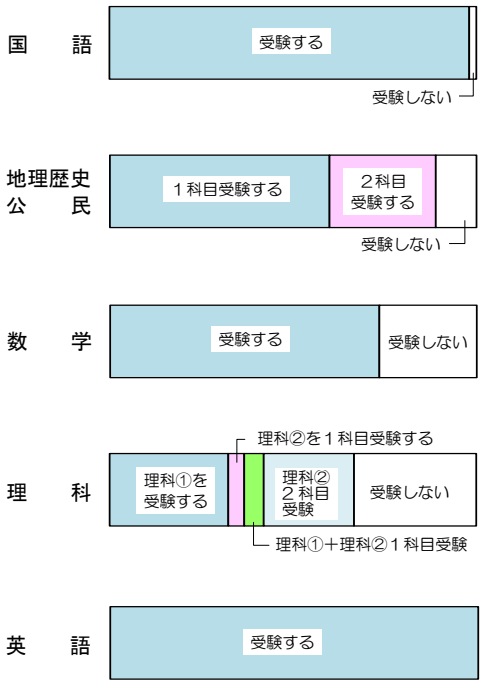
志願票裏面（第Ⅱ面）には、各自の受験教科を登録することになっている。（右図参照）

教科名	選択記入欄	
国語	A…受験する X…受験しない	□
地理歴史 公民	A…１科目受験する B…２科目受験する X…受験しない	□
数学	A…受験する X…受験しない	□
理科	A…理科①を受験する B…理科②を１科目受験する C…理科①を受験、理科②を１科目受験する D…理科②を２科目受験する X…受験しない	□
外国語	A…受験する X…受験しない	□

登録状況は右下のグラフに示した通りであるが、地歴・公民、理科は受験科目数や受験パターンにより、内訳が細かく分かれている。

地理歴史・公民に関しては、国公立大文系学部は２科目を課すところが多いが、大学・学部によって、他教科と合わせた中から３科目を課しているケースもある。本校では、地歴・公民を２科目受験で登録した人は全体の約29%である。国公立大理系志願者は１科目で登録している。文系であっても、私大志願者は１科目に絞って準備をしてきており、登録も１科目である。

理科は受験のパターンが４通りで、Ａ：理科①を受験、Ｂ：理科②を１科目受験、Ｃ：理科①＋理科②１科目受験、Ｄ：理科②２科目受験　の４パターンがある。Ａは国公立大文系志願者が受験する標準のパターンで約32%。これは理科基礎４科目の中から２科目を受験する。文系で理科２科目というと科目負担が気になる人もいると思うが、試験時間60分で２科目を解答するので、問題量は少なく、内容も基本問題が中心である。出題内容も落ち着いてきているので、しっかり準備すれば「満点」の可能性も高い。今年度の本校生徒の成績を見ても、化学基礎、生物基礎、地学基礎で満点（50点）はそれぞれ、３人、８人、１人、45点以上は化学基礎９名、生物基礎18名という結果が出ている。また物理基礎についても、45点以上が３人いて、文系志望者にとって理科①はセンター試験での「稼ぎどころ」である。一方、国公立大理系志願者はＤパターンの理科②２科目受験が大多数で約24%を占める。Ｃパターン理科①＋理科②１科目は医療・看護系志望者に多い。



2学期以降の進路行事、入試日程等

６年生　センター試験出願が終わり、志望校合格に向けてはこれまで以上に勉強に集中して取り組まなければいけない時期になる。10月上旬にセンター試験100日前を迎えるが、試験までの日数が２桁となるとこれまで以上にプレッシャーを感じることがあるかも知れない。しかしそう感じているのは、決して自分一人ではないということを忘れないことだ。口にこそ出さないが、みんな同じように感じている。右表に受験勉強スケジュールを記載したが、一般的なものであり、個人事情も考慮した上で、柔軟に考えてもらいたい。また自分の立てた計画が予定どおりに進まなくても決して焦らないことだ。

勉強の精度を上げ、弱点の補強、得意分野の強化を図る一方、忘れてはいけないのが「受験手続」である。センター試験志願票記載事項の確認はがきは10月中旬までに到着するはずであるから、正しく登録できたかどうかなどを確かめよう。12月中旬にはセンター受験票が到着する。試験会場を確認するとともに、受験票には写真をすぐに貼っておこう。受験写真は出張撮影に申し込まなかった人は、各自で早めに撮っておく。私大も含め個別試験への出願は１月からであるが、ネット出願が国公立大も含めて、増加の一途である。ネット出願に関しては、事前登録が必要な大学もあるので、日程にゆとりのあるうちに各大学のHPで手続き方法などを確認しておこう。間違いのないように準備しておきたい。

４年生、５年生　11月に大学模擬講義があり、４年生はその間に大学訪問(電気通信大学)も予定されている。５年生は科目選択説明会が今日行われたが、科目選択は安易な気持ちで決めないようにすることだ。両学年とも、模試が日程に組まれている。事後の復習が実力養成には大切だ。各自の課題克服に向けては、地道な努力が一番である。継続は力なりだ。

時期		校内行事他 ●は大学入試関連	受験勉強スケジュール
応用力養成期	９月	6年学診テスト(20,21) 5年選択科目説明会(27) ●センター出願(～10/6)	●志望校合格への学習課題を把握する ●受験までの学習計画を練り直す ●問題演習中心の学習に切り替える ●基礎の遅れは早めにリカバリーする ●受験に向けて生活習慣の改善に着手
	１０月	電気通信大学イベント(1)※ 「高校生・受験生のための模擬授業」 ●センター試験100日前(5) 中間考査(10～13) 6年学診テスト(17,18) 5年修学旅行(24～27) ●センター確認はがき受領	※電気通信大学模擬授業は事前申込制 9/28 申込み締め切り http://www.uec.ac.jp/news/event/2017/20170831_410.html
	１１月	4，5年学診テスト(6) 6年学診テスト(6,7) 4、5年大学模擬講義(14,16) 4年大学訪問(15)	●出題分野＆設問別の対策を完了 ●苦手分野は11月中までを目途に ●センター対策に重点を移していく
実戦力養成期	１２月	期末考査(1～6) ●センター試験受験票受領 ●6年調査書申請 ●センター試験会場下見 ●募集要項・願書入手	●センターの実戦演習を積み重ねる ●センターの時間配分戦略を立てる ●本番を見据えた生活リズムを確立 ●体調管理
	１月	●6年センター試験(13,14) 4,5年チャレンジセンター(14) ●6年データリサーチ(15) ●6年データリサーチ返却 5年学診テスト(23,24) 4年学診テスト(24) ●私大出願 ●国公立大出願(22～31) ●私大入試開始	●センター後は受験校の実戦演習 ●記述式問題の答案作成力を磨く ●知識事項の抜けを最終チェック ●受験期間中も学習時間を確保する
	２月	5年学診テスト(13,14) 4年セカンドステージ発表会 ●国公立前期試験(25～)	
	３月	学年末考査(1～6) 4、5年基礎学力テスト(8) ●公立大中期試験(8 以降) 卒業式(10) ●国公立後期試験(12 以降) 修了式(23)	

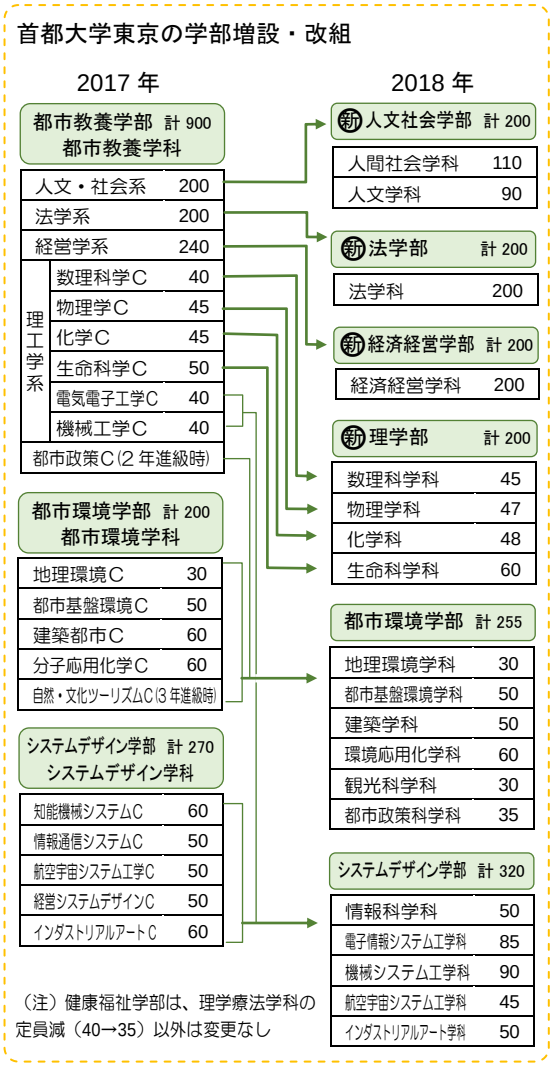
2018年国公立大入試はこう変わる！

国公立大次年度入試の「選抜要項」が出そろったが、大規模な入試改革や学部改組、募集人員の増減などが数多くある。そのすべてを紹介することはできないが、首都圏を中心に関連の情報を紹介したい。

新増設・改組・定員増減

何といっても首都大の全学的な改組が注目ポイント。既に、春告草 57 号、68 号でも紹介してきたが、改めて確認しておこう。まず都市教養学部がなくなり、４学部（人文社会・法・経済経営・理）に分割される。就活などの場面で「都市教養学部？」と人事担当者から質問される場面もあったと聞くが、首都大の前身である東京都立大の学部編成に戻った形になる。また都市環境学部は「１学部５コース→５学科」、システムデザイン学部も「１学科５コース→５学科」というように、「コース」から「学科」に改編された。

国立大では、①人文・社会科学系、教員養成系の縮小、②理工・農学系の拡大、③文理融合型学部の増設、の傾向が継続している。首都圏では、埼玉大の教育学部−定員減、工学部−定員増がある。また、横浜市立大はデータサイエンス学部を新設する。



募集人員・日程変更

春告草 57 号、66 号で紹介したように一橋大では、経済・法・社会学部で推薦入試を新規実施する。これまで商学部単独で行っていた推薦入試を全学部で拡大実施することになった。センター成績が選考資料となるが、英検１級取得など出願要件はハイレベルだ。この為、法・社会で後期試験を廃止、経済も後期の募集枠が縮小される。前期不合格となった学力上位層が後期でどの大学へ流れていくのか、今後の模試の志望者動向が気になるところだ。

その他、埼玉大では教養・経済[昼]各学部で推薦の新規実施→一般募集枠縮小、東京医科歯科大で推薦の募集枠拡大→後期募集枠縮小、東北大でAO入試募集枠拡大→一般入試募集枠縮小　など、募集人員を一般入試から推薦・AO入試へ移行するケースがみられる。

募集単位の変更

学科の統合と並んで、学部・学科等に分けず、大括りで募集し、入学後に所属を決定する方式の導入が目立つ。金沢大後期で、学類別の募集とは別に「後期一括入試（文系・理系）」を導入する。文・理系それぞれの共通問題を受験し、２年次から各学域・学類へ配属されるというものだ。首都圏での導入大学はないが、東工大が19年度入試（現5年生受験年度）より、前期試験を一括募集にすることは既に春告草69号で紹介したとおりである。

一般入試科目

21年以降の「入試改革」を意識し、英語や小論文、面接を追加するケースが目立つ。東京大−理Ⅲ前期での面接追加、埼玉大−工前期で小論文追加　に注意したい。

また英語外部検定の利用については、国公立大でも利用できる大学が増えている。利用方法は出願資格や得点換算、加点など大学により様々である。茨城大−工前期・後期、千葉大−看護前期で新規導入される。

首都圏主要国公立大変更点

※詳細は各大学のホームページなどで必ず確認してください。

埼玉大

①**教育**　定員減(430→380)前期 327→283、推薦 103→97／②**工**を「7→5学科」に再編、「イノベーション人材育成プログラム」を新設、定員(440→490)前期 201→235、後期 222→240／③**教養**　定員減(前期 125→115、後期 35→25)推薦入試新規実施／④**経済[昼]**　前期 240→215、後期 40→50　に変更、推薦入試新規実施／⑤**工**　前期個別試験に小論文を追加／⑥**理**後期、**工**後期の個別試験から英語を除外

千葉大

①**医**で定員減(117→112)の予定　前期 97→92 に募集減／②**工**前期・後期が「学科別募集→コース別募集」に移行し、デザインコースで後期を募集停止　AOを新規実施／③**薬**後期が「学部一括募集→学科別募集」になり、薬学科(6年制)で後期を募集停止(4年制の薬科学科では後期を継続)　前期は学部一括募集を継続。 推薦も「学部一括募集→学科別募集」になり、薬科学科では募集停止、薬学科は継続／④**園芸**後期　61→44　に募集人員減(AOを新規実施、推薦は廃止、特別選抜を若干名→10　人に)／⑤**教育(中学英語)**前期、**園芸(園芸)**前期、**看護**前期の個別試験で英語外部検定が利用可能に(加点)

お茶の水女子大

①**生活科学**に「心理学科」を増設／②**文教育(人間社会科学)**前期の個別で「国語・数学必須→国語・数学から1選択」に軽減

東京大

理Ⅲ前期の個別で面接を追加　出願書類に志望理由書(本人作成)を追加

東京医科歯科大

①**医(医)**後期で　15→10　に募集人員減(推薦を新規導入)、2段階選抜の予告倍率を「約8倍→約12倍に緩和／②**医(保健)**前期で 65→62 に募集人員減／**歯(歯)**前期で 38→33、**同(口腔保健)**前期で 32→28 に募集人員減(推薦を新規導入)

東京海洋大

海洋生命科学前期・後期、**海洋資源環境**前期・後期では、出願資格に英語外部検定(英検準2級以上など)が必須だが、経過措置(センター英語の基準点〈250 点中 170 点以上など〉)を 18 年入試まで延長する。

東京学芸大

教育(養護教育)前期で個別試験に面接を追加

一橋大

法・社会で後期を募集停止、**経済**前期で 215→200 に募集人員減(3学部で推薦を新規導入)

横浜国立大

①**教育**で全国枠推薦の募集枠拡大(28→54)、前期160→134に削減／②**教育(学校教育＝人間形成・教科教育)**前期で、個別試験に集団面接を追加し、選択科目を「総合問題→小論文」に変更　また、**同(特別支援教育)**前期で、個別試験を「総合問題→小論文・集団面接」に変更

首都大学東京

①**都市教養**を人文社会・法・経済経営・理の4学部に分割・改組(人文・社会系、法学系、経営学系、理工学系を移行)。一般入試の募集人員の増減は、**人文社会**前期146→141、後期22→27、**経済経営**前期170→130、後期30→20、**理**前期 137→97、後期 54→42(法は前期のみの実施で、増減なし)／②**都市環境**を「1学科5コース→6学科」に改組、都市教養から都市政策コースを移行し「都市政策学科」を増設　前期118→156、後期30→39に募集人員増／③**システムデザイン**を「1学科5コース→5学科」に改組、都市教養から2コース(電気電子工学・機械工学)を移行・統合する。前期170→195、後期50→63に募集人員増(以上、左図を参照)／④**健康福祉**で前期117→97、後期28→23に削減

横浜市立大

①　**「データサイエンス学部」**を新設(定員 60)／②**医(看護)**で個別試験に面接を追加.